

2018年12月3日
個人投資家様向け説明会
株式会社アプリックス（3727）

株式会社アプリックス
代表取締役 兼 取締役社長 長橋 賢吾
常務取締役 根本 忍

はじめに

アプリックスは、
モノをつなげるIoTソリューションを提供しています

証券コードは

3 7 2 7

みんな

つながろう

□長橋 賢吾 (ながはし けんご)

1977年7月 静岡生まれ 41歳

- 2000~2006年 大学（慶應村井研究室、東大江崎研究室）にてインターネット工学（インターネットの経路制御の挙動）の研究に従事
- 2006年 博士研究員として英国ケンブリッジ大学コンピュータ研究所客員研究員に赴任。
- 2006~2009年 日興シティグループ証券（現 シティグループ証券）にIT担当の証券アナリストとして入社。IT企業(NTTデータ、野村総研など)のカバレッジ担当。
- 2009年~現在 社外監査役、取締役を経て、2017年2月に株式会社アプリックス 代表取締役兼取締役社長に就任



会社名

株式会社アプリックス
[英文表記：Aplix Corporation]

本社所在地

〒160-0051
東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号

設立年月日

1986年2月22日

資本金

1,864百万円 [2017年12月末現在]

売上高

557百万円（連結） [2017年12月期]

従業員数

33名（連結） [2017年12月末現在]

マネジメント体制（2018年11月1日現在）

代表取締役 兼 取締役社長	長橋 賢吾
常務取締役	根本 忍
取締役	平松 庚三
常勤監査役	大西 完司
監査役	山田 奨
監査役	坂口 禎彦

執行役員	高木 健
執行役員	白川 貴裕
執行役員	山田 信重
執行役員	倉林 聡子

オブザーバー	田口 勉
オブザーバー	根木 勝彦
オブザーバー	石黒 邦宏
オブザーバー	曾根 卓朗

事業内容

テクノロジー事業

グループ会社

Aplix Corporation of America
株式会社BEAMO

目次

- 01 アプリックスのこれまでの歩みと強み
- 02 今後の成長戦略
- 03 株主様還元策
- 04 投資家の皆様へのコミットメント

1990年代（中期） メディアのインフラ CDオーサリングツール

WinCDR 6.0
Premium Package

CDWriter



大容量のデータをCD-ROMに書き込むことができる画期的な技術として注目される

1990年代（後期） ネットワークのインフラ 組み込みシステム向けWebブラウザ



インターネット対応カーナビゲーションシステム、
家庭用ゲームのインターネット対応等

2000年代 制御のインフラ 組み込み向けシステム向けJavaプラットフォーム



当社Javaプラットフォーム「JBlend」は多数の大手携帯電話メーカーに採用され、株式上場の直接の原動力に
全世界で9億台（2018年現在）を超える携帯電話に搭載

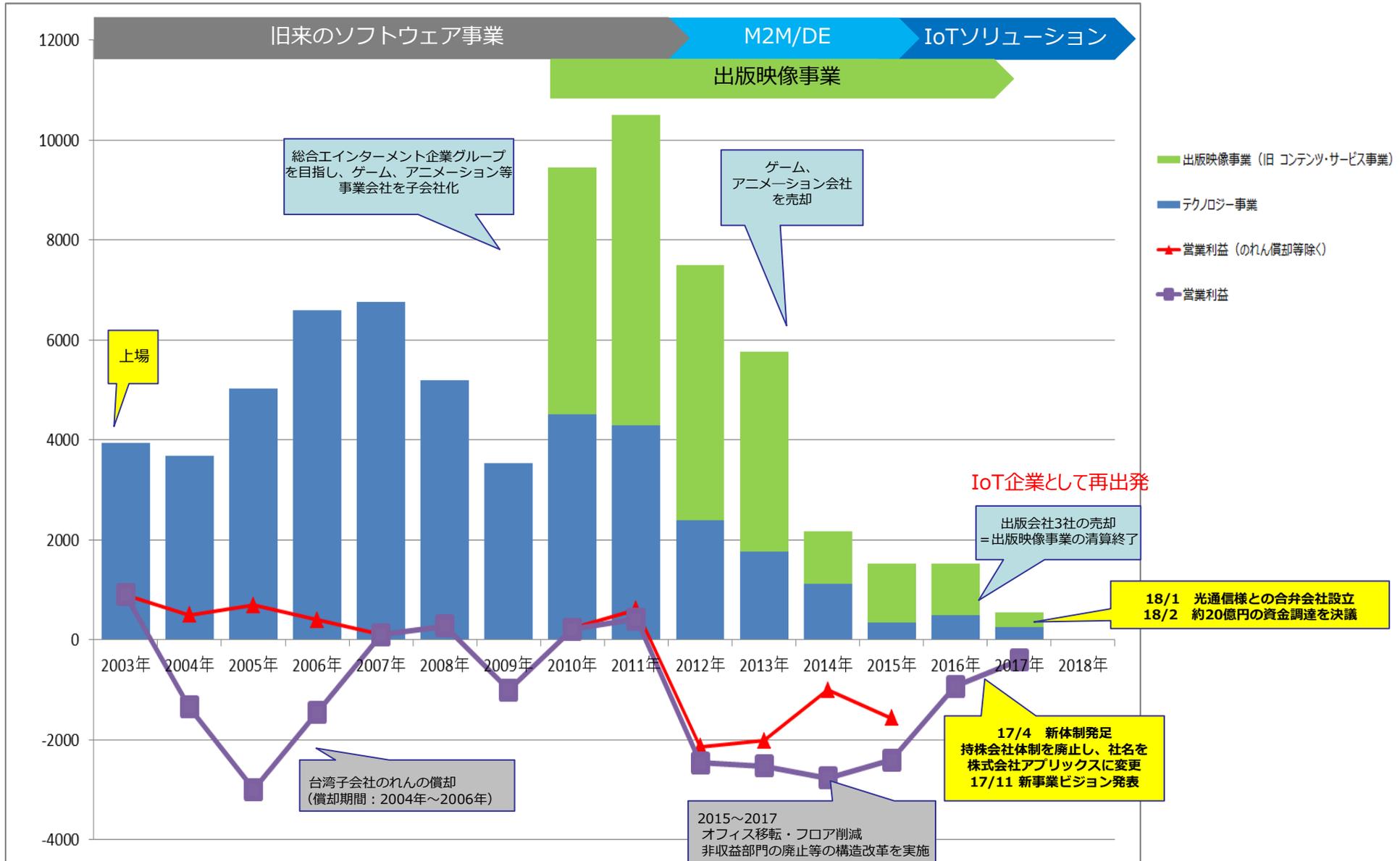
2010年代 IoT・M2Mのインフラ IoTトータルソリューション



ハードウェアの設計開発・製造からアプリケーション・
クラウドサービス、運用・保守までワンストップなIoT
トータルソリューションの提供

これまでの実績をもとにIoT/CPS・AI・Robot・Big Data時代の新しいインフラの構築・開発・運用へ

会社沿革③業績の推移



アプリックスの3つの強み

① IoT開発に必要な組み込み技術力

② 大規模IoTシステム開発

③ 海外でのIoTソリューション実績

IoT (Internet of Things) は、モノのソフトウェア化 (組み込み)

アプリックスは、カーナビ、携帯、家電などの分野における30年以上の取り組みを通じて蓄積した、ハードウェアの知識を活かしたアプリケーション、プラットフォーム開発の実績・ノウハウを保持しております。

<ハードウェア>



中国等で安価に調達・生産

<ファームウェア>



ハードを制御するソフト
当社独自開発

<アプリケーション>



UI・UX設計から
アプリフレームワークまで
設計

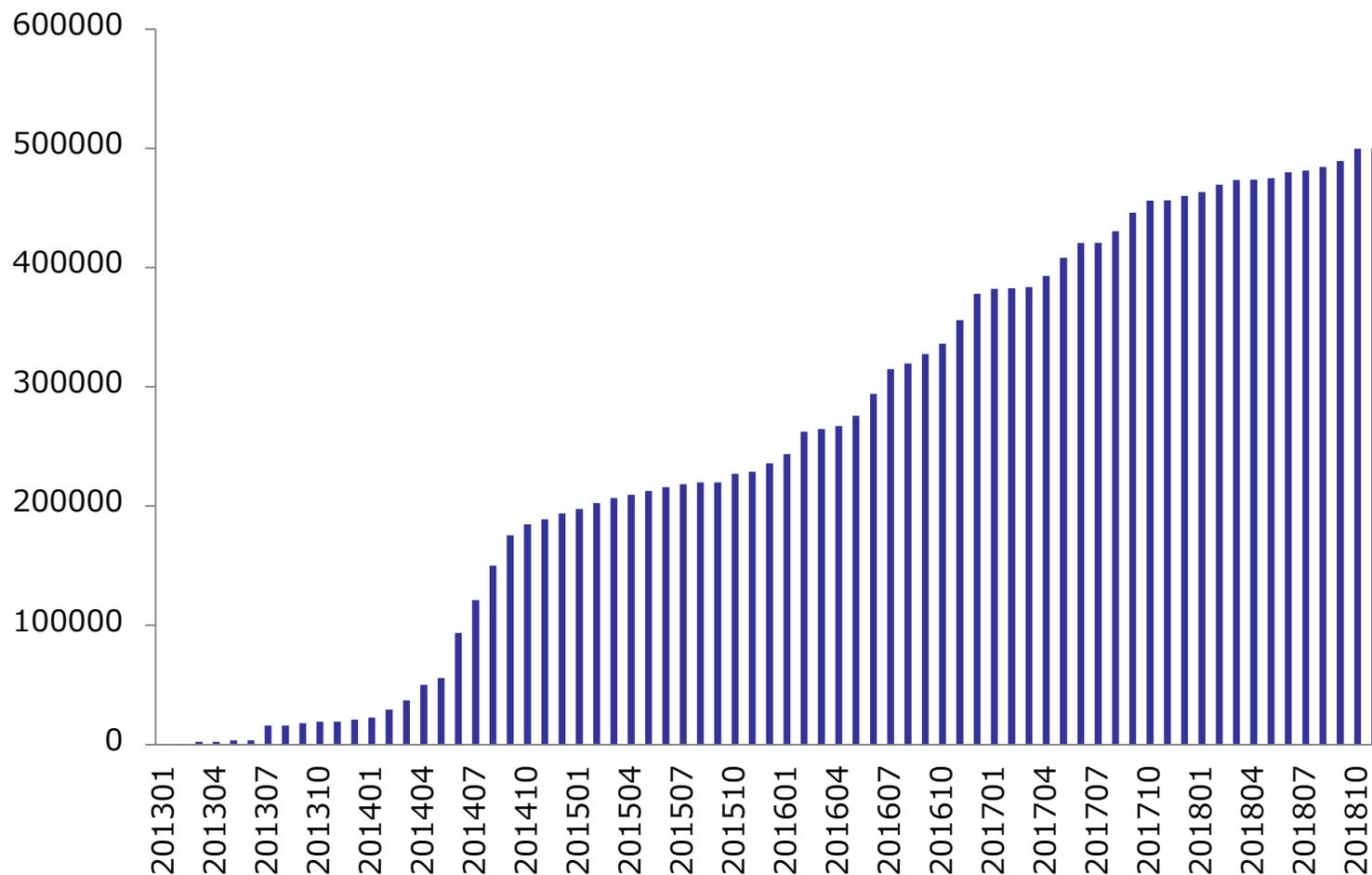
<クラウド>



大規模IoTサービスの運営

■モジュール出荷実績

2018年11月に累計出荷台数50万台突破



出所：会社資料（JMシリーズ、MyBeaconシリーズ、その他を合計）

■ 「MyBeacon®シリーズ」

「MyBeacon®シリーズ」とは、Bluetooth® Low Energyに対応したアプリックスのBluetooth® Smart製品であり、Beaconに対応したiOSデバイス向けにデータを発信し、iBeaconに対応したiOSデバイスを使って発信するデータを書き換えることが可能です。

置くだけ・貼るだけで手軽にBeaconを使ったサービスが開始可能であり、飲食業界、アパレル・ファッション業界、観光業界、運輸業界、レジャー・エンタメ業界などでのO2Oや位置情報、マーケティング、施設・展示案内、行動把握・分析などの幅広いサービスで実用化が進んでいるソリューションです。

< 「MyBeacon®シリーズ」ラインナップ >

汎用型



近接域特化型



防水防塵型



ペンダント型



USBスティック型



アプリックス通販サイト (<https://mybeacon-store.stores.jp/>) で販売中。

「MyBeacon®シリーズ」の採用事例

■ KDDI株式会社の動物園向けサービス「one zoo（ワンズー）」

✓ 「one zoo（ワンズー）」とは？

動物園で飼育されている動物の動画閲覧や専用アプリの入ったスマートフォンを持って展示ブースに近づくと音声で動物の解説をしてくれるなどの特徴を持ったKDDIが提供する動物園向けサービスです。

「MyBeacon®シリーズ」のラインアップのうち防水防塵型が動物園内に設置されるビーコンに採用され、すでに「よこはま動物園ズーラシア」（横浜市）、「天王寺動物園」（大阪市）や「旭山動物園」（旭川市）などで利用されています。



大規模プラットフォーム運用実績（ネスレ日本株式会社様）：

累計出荷台数30万台以上、アクティブユーザ10万を超えるネスレ社の「バリスタ i[アイ]」のIoTプラットフォームをアプリックスが一括して開発・運用しています。

<主な機能>



アプリでコーヒーの濃さ・泡立ちを調整



飲めば飲むほどポイントがたまる



家族や友達とつながる

ネスカフェゴールドブレンド バリスタ i[アイ]



コーヒーメーカー×アプリックスのIoT が可能にすること

ブランドとユーザーの結びつきを向上



コーヒーメーカーがBluetooth®を通じてユーザーの専用アプリとつながる事で、ユーザーにとって魅力的なコンテンツを数多く提供

- ✓ オリジナルレシピの登録機能
- ✓ SNS機能の提供
- ✓ コーヒーを淹れる度にプレイ出来るゲーム
- ✓ それにより付与されるポイント
- ✓ ポイントを貯めて得られるインセンティブなど。

ユーザーはコーヒーを淹れる事自体が楽しくなり、
コーヒーメーカーへの愛着も増進。

ブランドとユーザーの結び付きがより強固なものに

コーヒーメーカー×アプリックスのIoT が可能にすること

「売り切り型」から「継続収入型」へのシフトをさらに促進



「消耗品の直販率」の増加により「利益率を向上」

そこに加えてこの度、機器のIoT化を実現した事により、**更なる付加価値・新しい体験**をユーザーに提供。
機器への愛着を強めさせ、「**定期購入契約継続**」の促進に成功しています

また、IoT化によって、**機器から取得されたデータを分析**する事により
正確な情報を元に、次々とサービスの質を向上させる事が出来るのです

■システム開発支援

(ネスレ日本様：新・宅配サービス「MACHI ECO（マチエコ）便」)

ネスレ日本株式会社様の新・宅配サービス「MACHI ECO（マチエコ）便」のシステム開発を支援しました。

アプリックスは「MACHI ECO便」において、以下のような開発支援・保守を担当しています。

■専用のWebシステム

メール送信、ネスレ公式オンラインショップとの連携、宅配管理など。

■専用の宅配ロッカーのシステム

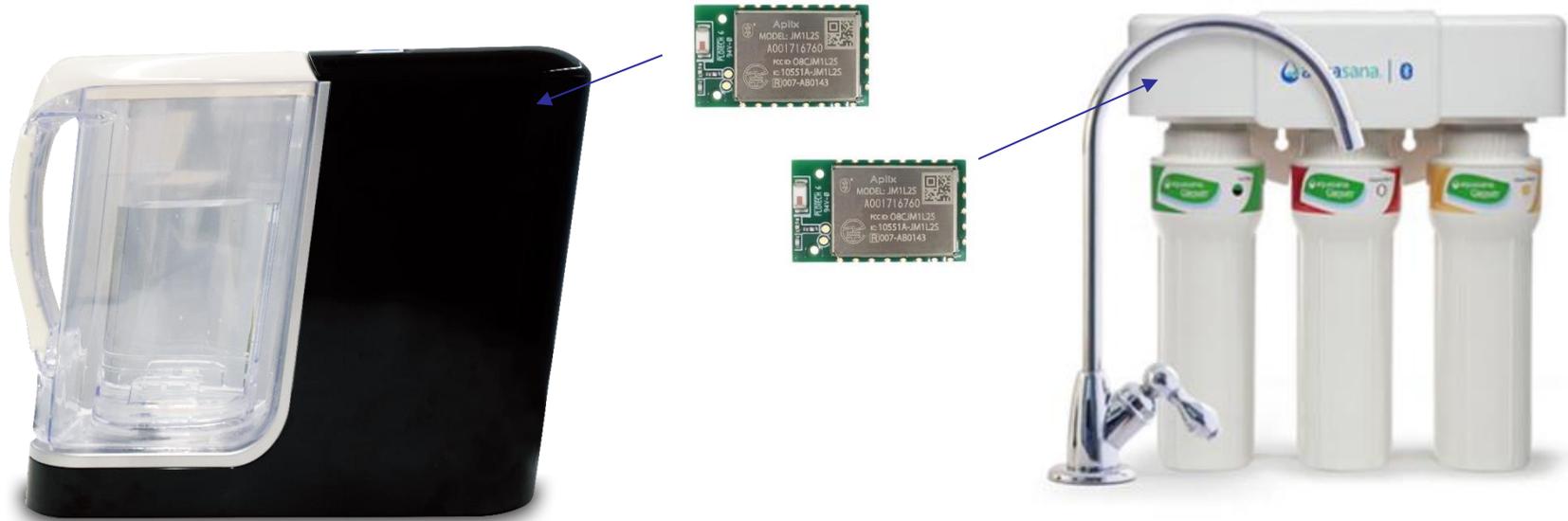
「MACHI ECO便」システムとの連携、QRコードの読み取り、商品の入出庫管理、盗難防止など。



「MACHI ECO便」Webサイト：<https://machieco.jp/>

アプリックスでは2000年代後期より米国を始めとした海外での営業・マーケティング活動を続けており、スマホを活用した浄水器フィルター交換の仕組み（Aquasana, Inc.）、Amazon AlexaやGoogleアシスタントを使った空気清浄機（Guardian Technologies LLC）など海外のクライアントと先端的な実績があります

■ IoT 搭載浄水システム①



Aquasana, Inc.

アプリックスのBluetooth Low Energyモジュールが
米国大手浄水器メーカー Aquasana, Inc.に採用された
浄水システム

■ IoT 搭載浄水システム②



フローメータータイプ

アプリックスの浄水器用IoTソリューションが
世界最大手のキッチンシンクメーカーFrankeに採用

既存製品に後付け可能なため、
あらゆる浄水器をIoT化する事が可能

浄水器 × アプリックスのIoTが可能にすること

専用アプリで利用状況を把握



使用開始してからの浄水量、経過日数を記録してアプリ上に表示。フィルタの交換時期を迎えると自動で通知

ストレスフリーなフィルタ交換



フィルタ交換の通知をタップするだけで、アプリ内からフィルタの通販サイトへ直接遷移が可能

IoT 搭載空気清浄機

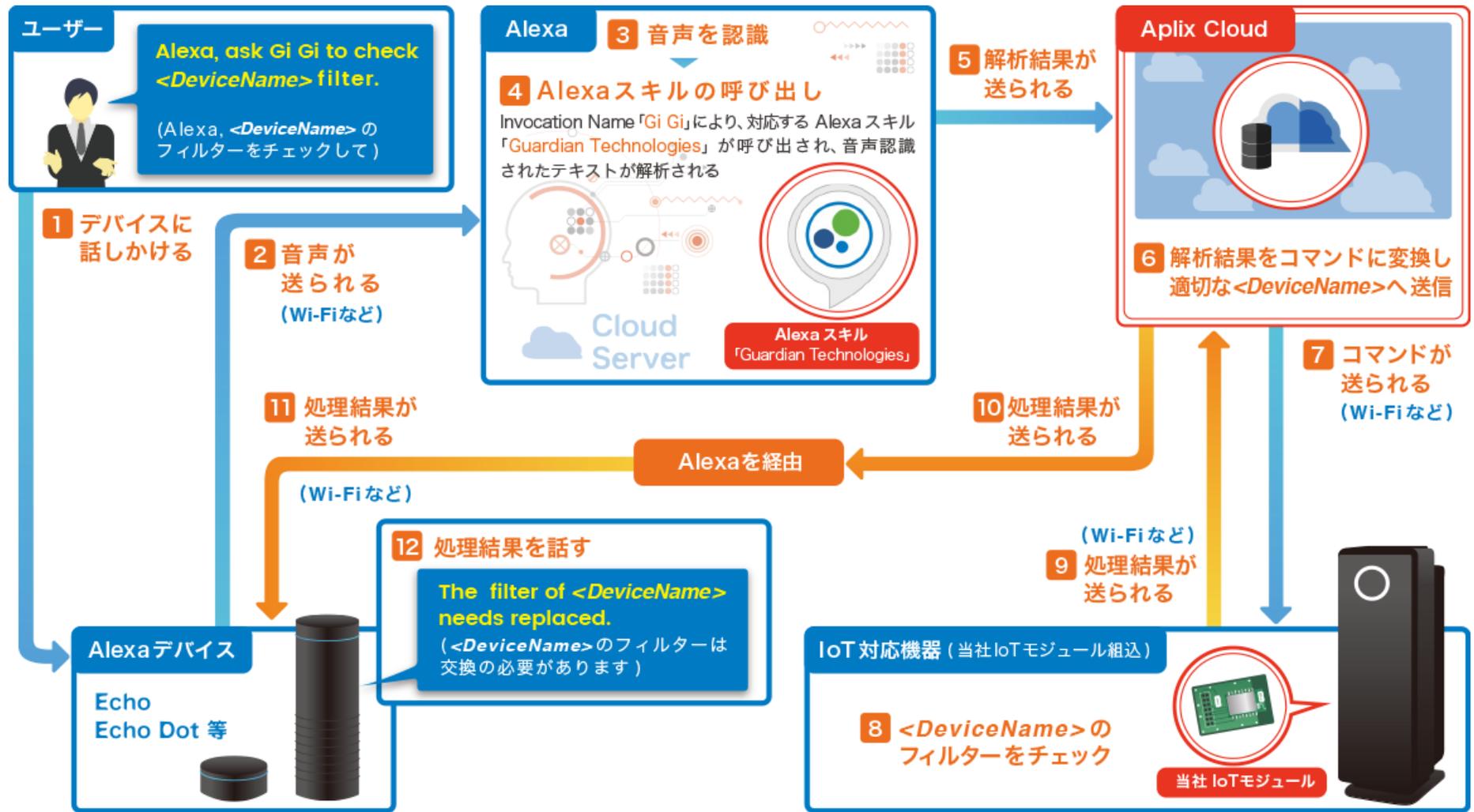
Guardian Technologies社

Bluetooth Low Energy /Wi-Fi両対応。
専用アプリを通じた遠隔操作やUIの改善も実現

Amazon Alexa、Google Home対応



Amazon Alexaの事例



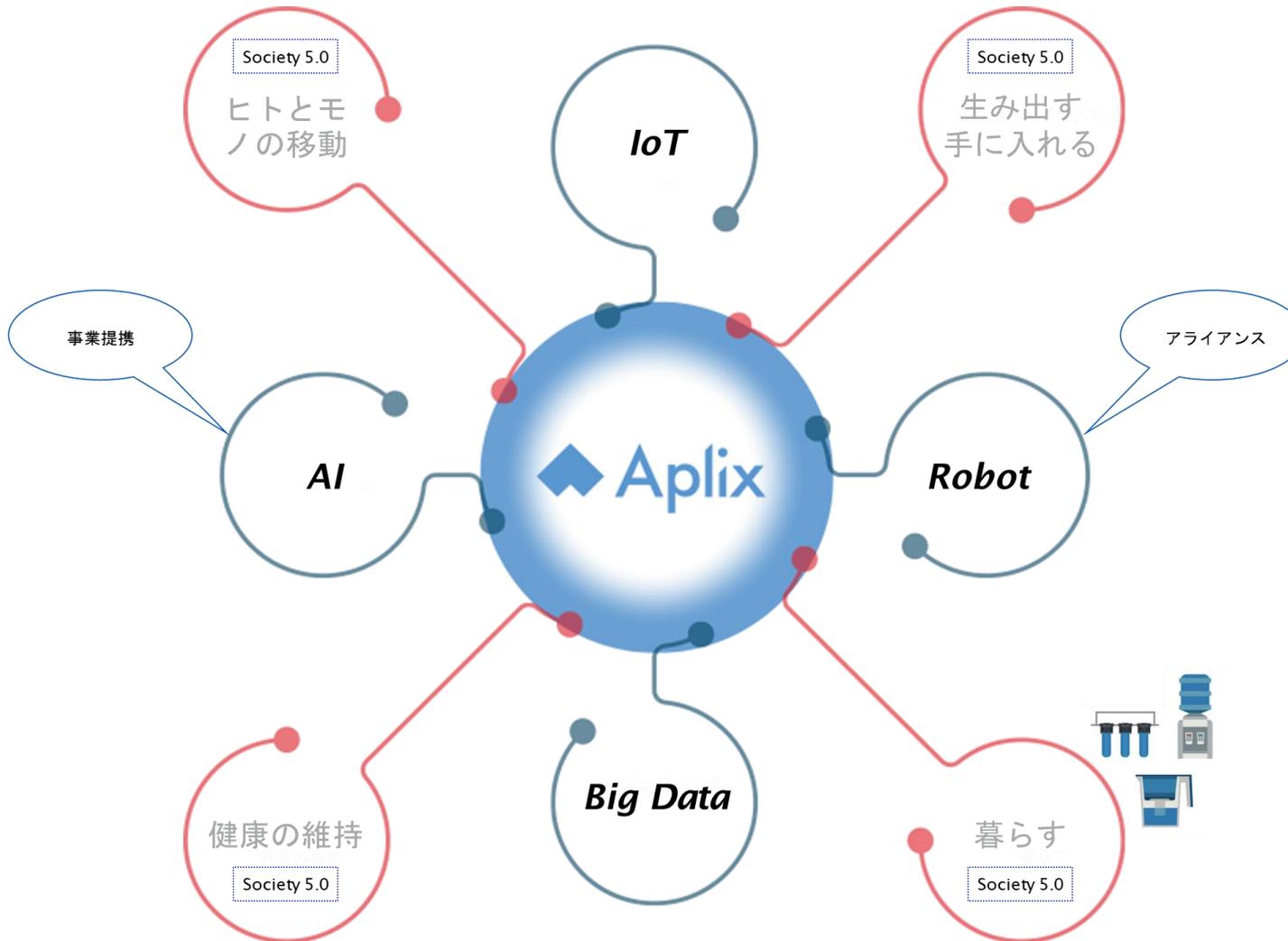
※「Wi-Fi」は、Wi-Fi Alliance の登録商標です。

目次

- 01 アプリックスのこれまでの歩みと強み
- 02 今後の成長戦略
- 03 株主様還元策
- 04 投資家の皆様へのコミットメント

CONNECTING THE UNCONNECTED

ミッション：「みんなをつなげる」ことに貢献する企業（東証マザーズ：3727）
「みんなをつなげる」ことによる新たな付加価値の創造と新しいビジネスへのチャレンジ



※Society 5.0：内閣府第五期科学技術基本計画

当社をめぐる現状と課題

- ・ 18年12月期Q3 売上高2.1億円
⇒黒字化を達成するには、さらなる売上高の拡大が必要
- ・ 売上高の拡大にあたっての必要な要素
 1. 3本の矢による成長加速
 2. M&A（進行中）

アプリックス黒字化に向けた3本の矢

第1の矢: 既存ビジネスでの売上拡大

第2の矢: 新規サービスでの売上拡大

第3の矢: 新しい分野への仕込み

<第1の矢：既存のビジネスでの売上拡大>

1・国内

ビーコン販売体制の強化

⇒国内営業を強化して、販売体制を拡充

ビーコンからシステム開発までの受注を狙う

受託開発の拡充

⇒「引き合い案件を断らない」をスローガンに拡充

既存顧客からの引き合いが拡大し、Q3は大口顧客からの売上が拡大

2．海外

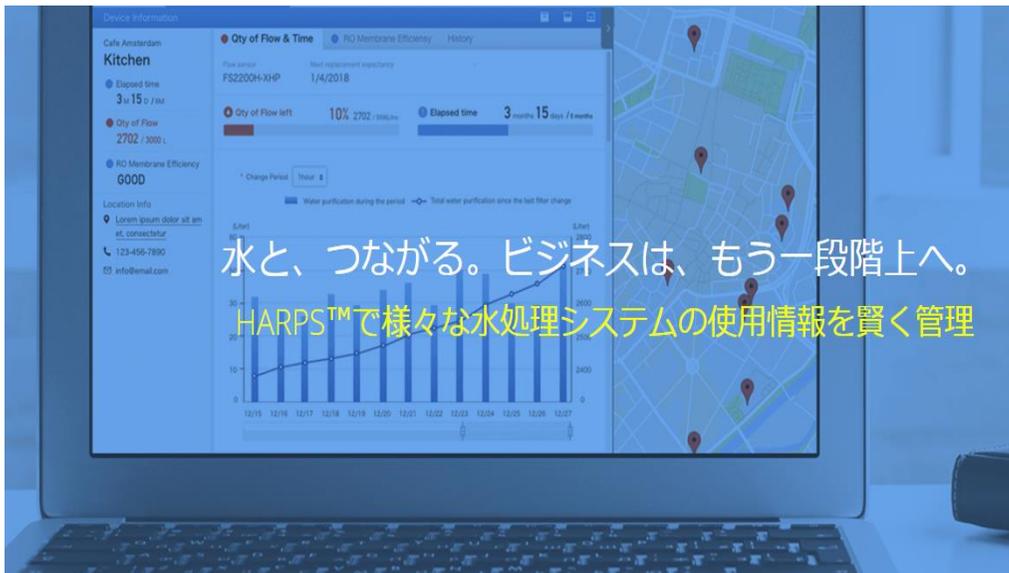
浄水器フィルターモニタリングサービス「HARPS」の販売強化

既存顧客からのリピートオーダー

HARPS™ (ハープス)



「HARPS (ハープス) 」とは、水処理システムをIoT化するオールインワンパッケージです。流量センサーを接続して、浄水器のフィルターの使用状況や交換時期をモニタリングします。その他にも、簡易TDSセンサー（水に溶けている電解物質の除去率を測定するセンサー）など、各種センサーに対応したサービスを欧米を中心に順次展開しています



ハードウェア

サービス

オプション：カスタマイズ



センサーゲートウェイ
"IoTIZR™"



Webアプリ
モバイルアプリ

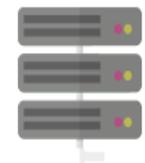
センサー追加



画面デザイン変更



接続先サーバー



<第2の矢：新規サービスへの取り組み>

- DAKOQ：ビーコンを用いたスマート打刻サービス
⇒7月20日に販売開始、クライアントの引き合いもあり、受注強化
- こそあどカメラ：コールセンターなどのスタッフがエンドユーザーからスマートフォンのビデオ通話で話を聞き、写真と手描きの指示でリアルタイムにサポートするサービス
⇒国内・海外への販売にむけて開発中
- BeaBridge：ビーコンが発信する情報を無線LAN経由でインターネットに送信するゲートウェイ
⇒7月20日に販売開始、ビーコンとの併売を狙う

子会社BEAMOとの協業で販路拡大を強化

<第3の矢：研究開発>

- groma：屋内測位／位置情報システム市場向けソリューション
⇒18年4月に設置した研究開発室が主体となり、尖ったサービス・プロダクトを開発中

「DAKOQ (ダコク)」とは、Beaconのそばを通るだけで出退勤時刻を記録・管理するスマート打刻サービスです。社員及び管理部門の省力化と正確な時間管理によるコンプライアンスを実現します。



電源がない建設現場やイベント会場などオフィス以外の作業場等に設置することができます。その場合も、アプリックスのMyBeaconシリーズのBeaconを使用するため、セキュアな環境を維持します。

ダコク™

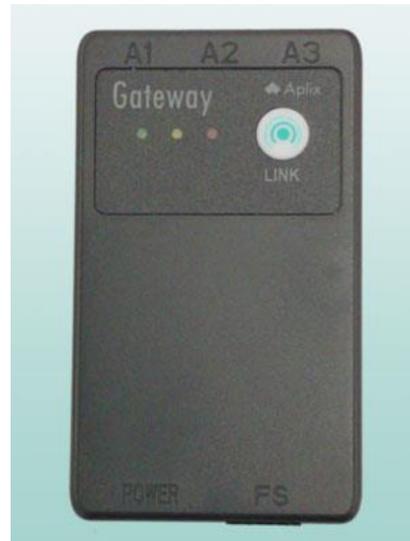
D A K O Q

「こそあどカメラ」とは、コールセンターなどのスタッフが、エンドユーザーからスマートフォンのビデオ通話で話を聞き、写真と手書きの指示でリアルタイムにサポートするサービスです。専門家であれば簡単な操作であっても、エンドユーザーが電話でうまく状況を説明できず対応に時間がかかったり、専門用語がエンドユーザーに通じなかったりする、言葉にしづらいコミュニケーションをアシストします。

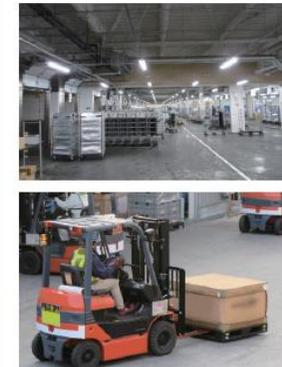
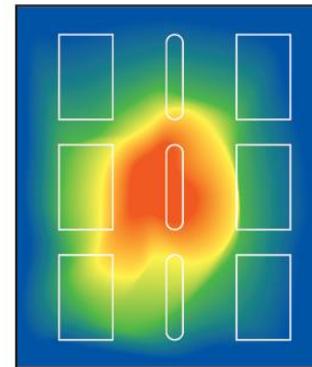


「BeaBridge (ビーブリッジ)」とは、BeaconがBluetooth Low Energy経由で発信する情報を無線LAN経由でアプリックスのクラウドにシームレスに集めるゲートウェイサービスです。ユーザーはいつでもダウンロードして活用することができます。

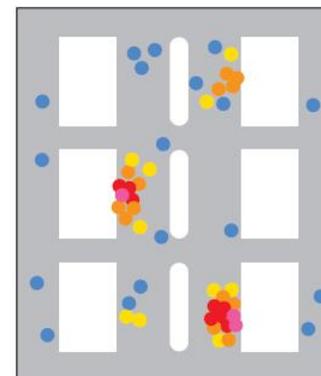
<活用例>



冷蔵倉庫の温度管理



展示場来場者の動線解析



「groma」とは、アプリックスの屋内測位／位置情報システム市場向けソリューションです。
「Quanti」は、「groma AprilTag ソリューション」の1つで、書類や在庫にiPhoneのカメラをかざすだけで、それらに貼られている複数のARマーカを同時にスキャンし、その中から見つけたものを素早く探し出すサービスです。

※「AprilTag」はAR、ロボット工学、カメラキャリブレーションなど広い用途で便利な座標基準マーカです。
「AprilTag」については、<https://april.eecs.umich.edu/software/apriltag.html> を参照。



The logo for Quanti features a large, stylized blue letter 'Q' above the word 'Quanti' in a blue, sans-serif font. A small 'TM' trademark symbol is located at the bottom right of the word 'Quanti'.



株式会社アプリックスと株式会社光通信の合併会社「株式会社BEAMO（ビーモ）」が2018年1月4日に設立され、2018年2月1日から業務を開始しました。

MVNO、法人向け携帯電話などの販売のほか、「DAKOQ」や「MyBeacon」等の当社のIoT製品やサービスについても取り扱っており、当社の販路拡大に寄与しております。

<BEAMO会社概要>



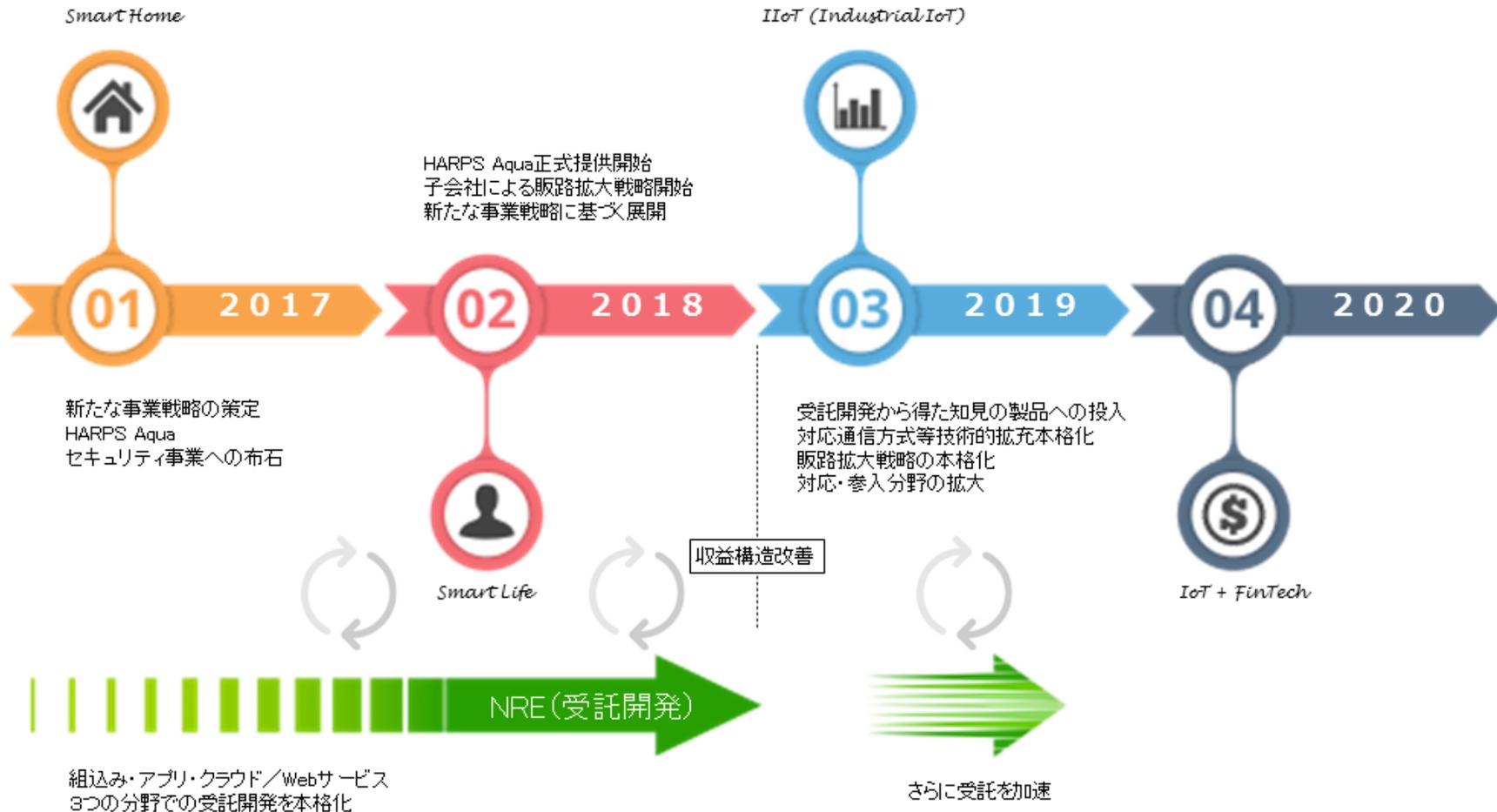
会社名	株式会社BEAMO
英文会社名	BEAMO Inc.
所在地	東京都新宿区西早稲田二丁目20番9号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長：長橋賢吾
資本金	10百万円
大株主及び持分比率	株式会社アプリックス：51%、 株式会社光通信：49%
URL	https://beamo.jp

当社の現状の課題：当社ではトータルIoTソリューションを提案しているものの、ハードウェアはBluetooth Low Energyが中心、Bluetooth Low Energyが顧客にとってベストとは限らないケースあり

対応通信方式の拡充：Bluetooth Low Energyのみに依存するのではなく、顧客のニーズにあわせて複数の通信デバイスへの対応、SIM、LPWA等への対応、自社でハードウェア製造はするのではなく、パートナーとの連携による提供を目指す

事業展開に係る中期的タイムライン

2017年11月9日発表の新事業ビジョンに掲げた施策を着実に実行することにより、既存のIoTソリューション事業の拡充、新たな技術の開発及び事業領域の拡大を図り、業績向上を目指す



IoTで広がる世界

(i) スポーツ(フィットネス等)



(ii) エンターテインメント
(ゲーム、観光等)



(iii) オフィス/ワークプレイス



(iv) 医療(健康、介護)



(v) スマートハウス/ライフ
(日用品、通信等)



(vi) 小売り(金融、決済)



(vii) 農林水産業



(viii) スマートシティ/スマートエリア
(施工管理・メンテナンス等)



(ix) 交通(移動、物流等)



総務省 電波政策2020懇談会報告書より (2016年7月)

➡ **スマホの延長線から用途産業 (Vertical) が広がるIoT時代へ**

「新技術の開発等に関する当社の取り組みについて」

株式会社アプリックス
常務取締役 根本 忍

※スクリーンをご覧ください。

■ 現状



IoT World Forum Reference Model

Levels

- 7 Collaboration & Processes
(Involving People & Business Processes)
- 6 Application
(Reporting, Analytics, Control)
- 5 Data Abstraction
(Aggregation & Access)
- 4 Data Accumulation
(Storage)
- 3 Edge Computing
(Data Element Analysis & Transformation)
- 2 Connectivity
(Communication & Processing Units)
- 1 Physical Devices & Controllers
(The "Things" in IoT)



■ 今後の戦略

IoT World Forum Reference Model

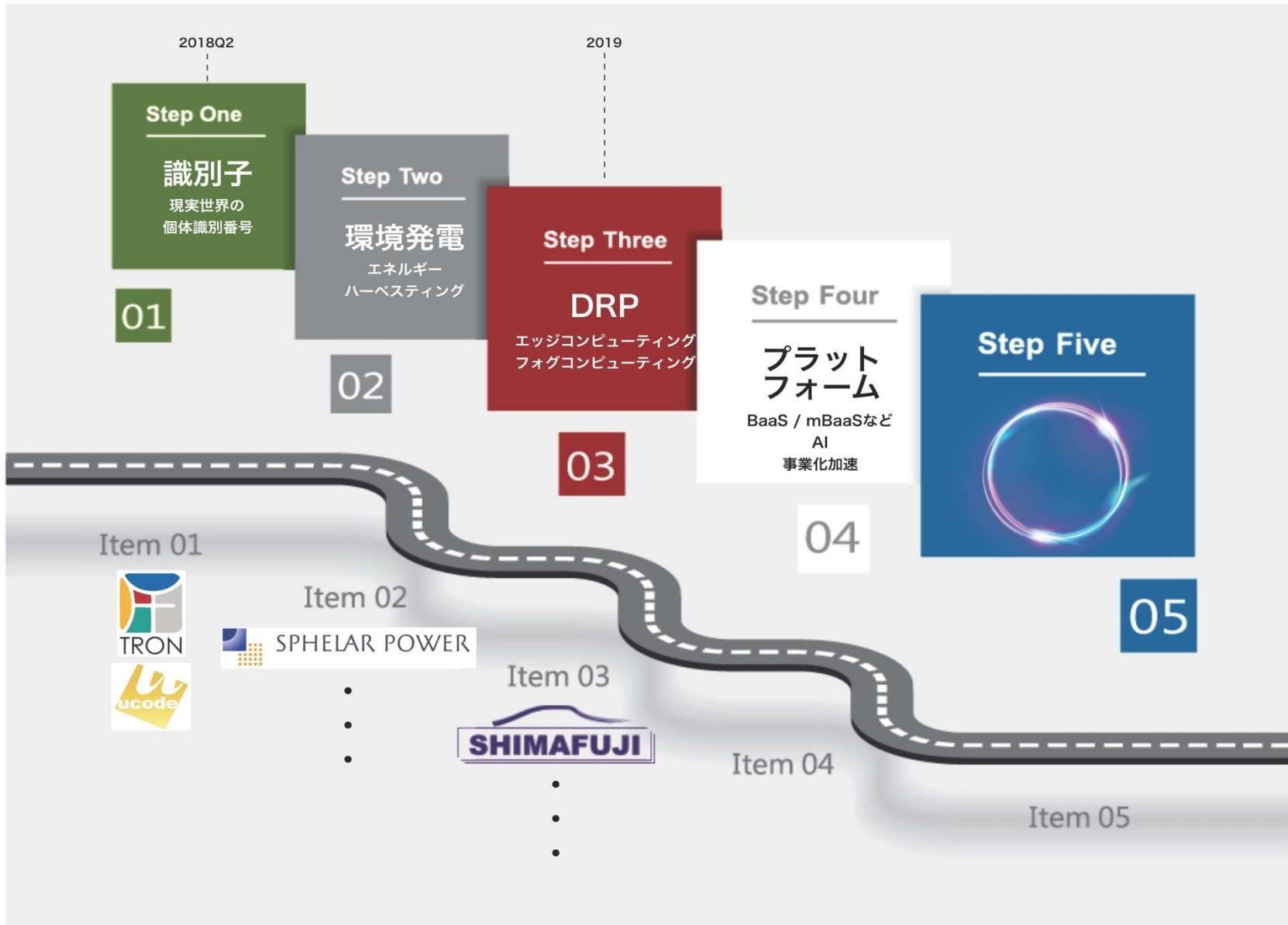


■ 研究開発活動



人工知能学会、日本ロボット学会、日本音響学会、情報処理学会・・・

■ 構想 (案)



目次

- 01 アプリックスのこれまでの歩みと強み
- 02 今後の成長戦略
- 03 **株主様還元策**
- 04 投資家の皆様へのコミットメント

➤ 2018年5月10日に株主優待制度の導入を取締役会で決議

■ 導入の目的

- ✓ 株主の皆様に対して当社のご理解をより深めていただくとともに、中長期に渡って保有いただくための施策

■ 優待の内容

保有年数	優待内容
3年未満	UCギフトカード500円分
3年以上5年未満	UCギフトカード1,000円分
5年以上	UCギフトカード2,000円分

※ 毎年12月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された当社株式300株（3単元）以上保有の株主様が対象

■ 開始時期

- ✓ 2018年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主様を対象として本株主優待制度を開始予定

**12月権利付き最終日まで当社株式を
1単元以上保有し、3月の株主総会で
議決権を行使していただいた株主様に
QUOカード500円分を贈呈予定**

目次

- 01 アプリックスのこれまでの歩みと強み
- 02 今後の成長戦略
- 03 株主様還元策
- 04 **投資家の皆様へのコミットメント**

- 1. 開発エンジニアの個性を尊重し、革新的なサービス・製品を送り出し続けます。**
- 2. 早期の黒字化、ひいては企業価値向上に向けて社員一同全力を尽くします。**

おわりに

アプリックスは、
モノをつなげるIoTソリューションプロバイダです。

証券コードは

3 7 2 7

みんな

つながろう

ご清聴ありがとうございました。
株主・投資家の皆様におかれましては、
何卒、当社の今後のチャレンジにご期待ください。

CONNECTING THE UNCONNECTED



株式会社アプリックス
<https://www.aplix.co.jp/>

ご注意：本資料は、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。